

●京都帝國大學文學部 考古學研究報告第七冊

京都帝國大學文學部考古學教室より今般考古學研究報告第七冊を發行したるが、這回は石器時代の遺跡若しくは古墳の研究は頗る其の趣を異にし、歴史時代の考古學特に日本に於ける「基督教考古學」にも名く可き題目を主としたるものなり。即ち新村博士は攝津高槻在東藤次郎氏所藏のシャヴィエル聖人諸像瑪利亞十五女義圖、耶蘇廢刑木像をはじめメダル類より、吉利支丹教義の抄物に就きて、精到なる研究を發表せられ、新村濱田兩博士は京都及其附近發見の切支丹墓碑約十基に就きて之を記述し、其の形式記銘を論じ、且つ南蠻寺其の墓地に言及せられ、又た濱田博士と梅原氏はフランシスコの教名合字入の鞍と南蠻人繪鞍とに就きて、同種の遺物を比較して記述を試みられたり。圖版は本版彩色圖二葉の外、玻璃版石版等約四十葉に近く、日本に於ける切支丹に關する研究者に取つて最も重要な史料を提供せるもの云ふべく、又た附録の日本發見銅銚銅劍銅鏃聚成表及圖は考古學者に取りて缺くべらざる資料たるべし。（岩波書

店發賣、定價五、〇〇）

●金海貝塚發掘調査報告

大正九年度古蹟調査報告として朝鮮總督府より最近出版されたものにして、慶尙南道金海郡金海の該貝塚は早く今西、黑板、烏居の諸博士の調査を経たるものなるが、這回の報告書は更に大正九年度に濱田博士、梅原末治兩氏の發掘調査したる結果を錄せるものなり。本文六〇頁、圖版五十五面、挿畫十四葉、其の内容は遺蹟、遺物考説の三章に分ち、更に各節を設けて詳細に論述する所あり。附表として朝鮮石器時代及金石並用期遺物發見要覽を掲げ、附録として金海貝塚出土獸骨調査報告（理學博士松本彦七郎氏）を以てしたり。該貝塚の二十尺に上る貝層に於て濱田博士は分層的發掘の結果、上下層に何等遺物の著しき相違を認めず、其の出土遺物として祝部式、彌生式、素燒式の三種の土器以外に、骨角製の刀子柄、各種尖頭器、石器、鐵器、貨泉、玉類の多種を出し、殊に王莽の貨泉の發見は該貝塚の絶對年代を想定するに重要な資料を供給せり。斯くて著者は貨泉、玻璃

製玉器の支那文化との接觸を語らしむる半面、鐵器、燒米、牛馬骨等の發見は此の貝塚築成人が既に半ば農耕時代に入れるを知るものにして所謂、金石並用期に屬するものあることを明にし、該貝塚築成の民族は彼此の比較研究によりて任那古墳築成人の祖をなせるものならんことを推せられたり之を要するに該貝塚が單に南鮮の一貝塚としての意義に止らずして貝塚構成の絶對年代は文化、人種等に於いて内地の後期石器時代即ち彌生式系統のものと密接なる關係を有する點に於て該調査報告の價值一層大なるものあるを覺ゆ。(似玉堂發賣定價五、〇〇)

●石川縣史蹟名勝調查報告 第一輯

加賀能登兩國の古代遺蹟を含む該報告書第一輯が石川縣より發行したるが其の内容は本文七十六頁、三十一葉の圖版十三葉の實測面を以てし、石器、古墳の兩編に分ちて記述したり。前者に於ては就中、日本海沿岸の砂丘の遺跡を舉けたるは丹後函石等の遺蹟と共に砂丘の地理的研究に興味あるものなり。後者にては編者上田三平氏の發見にかゝる勅使村の法皇山横穴群のものを主と

すべく、墓制沿革上の好資料とすべし、其他一々の遺蹟遺物に就きては精密なる實測圖と圖版とに待つて窺ふべく、編者が曩に福井縣に於て上下二冊を完成したる努力は又た本書に見るべし、たゞ遺憾とするは遺跡分布地圖類の挿入なき爲に特に本縣の如き地形のものにては本文其他との對照に明瞭を缺く點なり。されど近時所謂裏日本に於ける古代遺蹟の益々究明され勢ひ對岸の諸國との交渉を云々せらるゝ時に當り本書の公にせられたることは斯界の爲慶賀すべきことなり。(石川縣發行、非賣品)

〔以上島田〕

彙 報

●京都帝國大學講演會

京都帝國大學主催第十四回講演會は來八月一日より八日までの間、京都帝國大學に於て開催さるゝ筈であるが講演題目、歴史及び地理に關係あるものは左の通り。なほ聴講希望者は七月二十日までに同會宛に申込まるべ